

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

岐阜県 中津川市

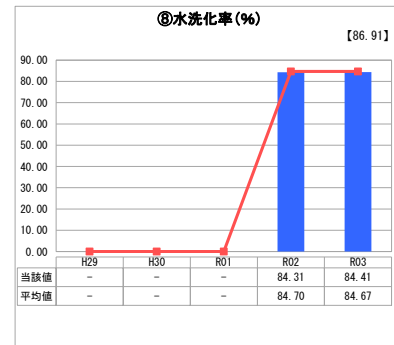
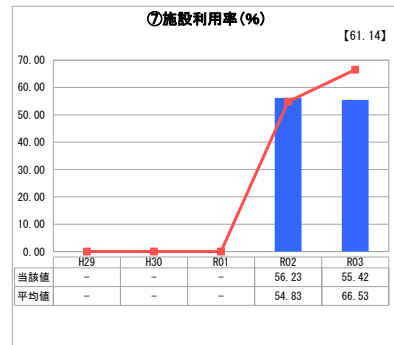
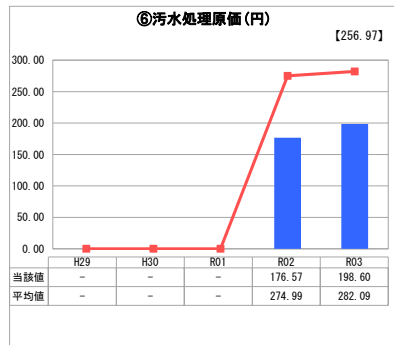
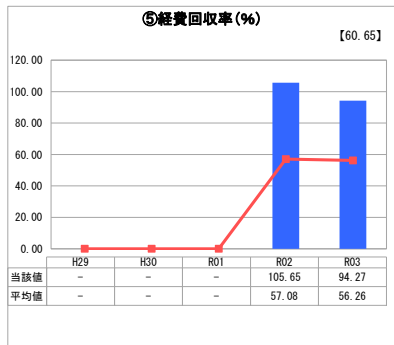
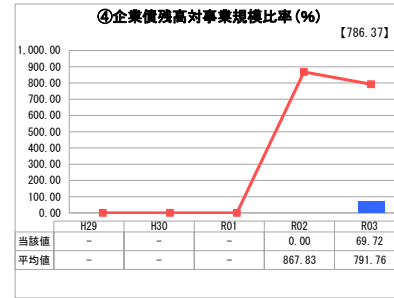
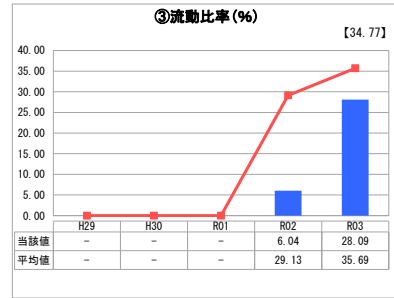
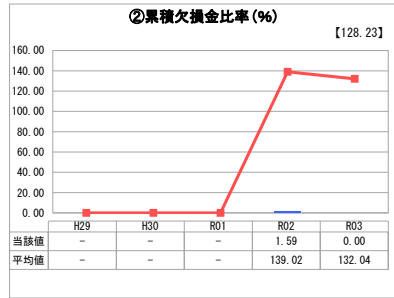
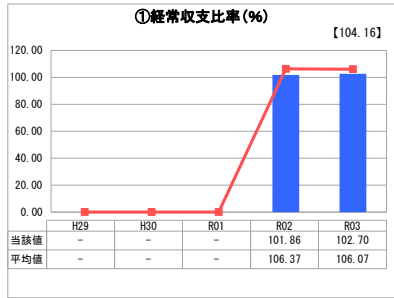
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	70.42	10.14	92.24	3,740

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
76,348	676.45	112.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,682	19.67	390.54

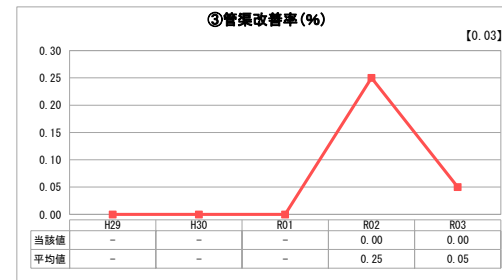
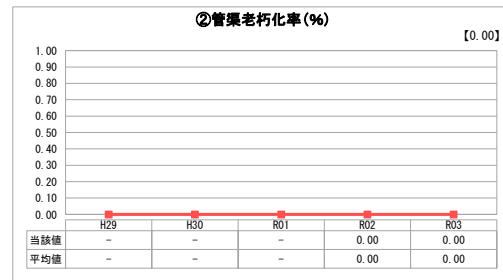
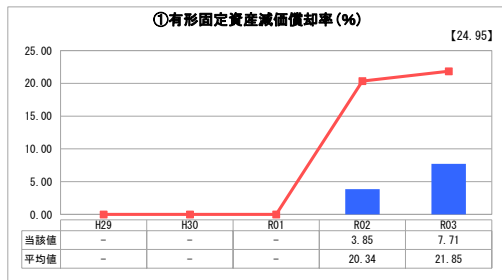
### グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を上回っています。一方で一般会計繰入金によるところが大きく、人口、年間有収水量の減少により使用料収入は減少傾向にあるため、経営基盤の改善に努める必要があります。

②累積欠損金比率は、地方公営企業法の適用初年度に計上された一時的な損失がありました。黒字決算を結んだことで解消され、0%となりました。

③流動比率は、現金等の流動資産が、企業債の返済を主とした流動負債を下回っています。資本費平準化債の借入により数値が改善されましたが、使用料収入の増加、経費削減により資金残高の維持に努める必要があります。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均値を下回っています。一般会計の負担額が多く平均値より低くなる傾向にあります。企業債の返済は順調に進んでおり、今後も必要最低限の借入のみ行うことで健全経営に努めます。

⑤経費回収率は、類似団体平均値を上回っていますが100%を下回りました。企業債の返済、施設更新に備え経費回収率の維持に努める必要があります。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値を下回っていますが、年間有収水量が減少傾向にあり前年比で増加しました。公費負担の減少に備えて引き続き接続率の向上に努めます。

⑦施設利用率は、類似団体平均値を下回りました。

⑧水洗化率は、類似団体平均値と同程度です。人口減少により水洗化率が微増することが予想されます。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、取得から経過した年数が短い資産が多く、類似団体平均値を下回っています。償却の進行を把握し、今後の予測を立てると共に他の指標と合わせて分析を行います。

②管渠老朽化率は、9処理区の供用開始が平成9年から平成19年の間であり、法定耐用年数を経過した管渠がないため、0%となります。管渠の更新時期はまだ到来していませんが、老朽化率の上昇に備えて、最適整備構想に基づき計画的な更新を図ります。

③管渠改善率は、施工した更新工事がなく0%となります。

### 全体総括

当市の人口は今後も減少が予想されています。当該処理区域内は人口密度が低く使用料収入が低い傾向にあり、中山間地域特有の地形から設備が多いため汚水処理費等が相対的に割高となっており、人口減少に比例して経営状況は徐々に厳しくなっていくと考えられます。また、一般会計繰入金については地方交付税が減額されていく中で必要とする繰入額が確保できない可能性を排除できません。

令和2年4月から、下水道事業は地方公営企業法を適用しました。減価償却費などを含め、より正確かつ客観的に経営状況をとらえることが可能となりました。今後は、より丁寧な分析を行い適正な受益者負担を検討しつつ、将来の設備更新に備えるために、最適整備構想に基づく計画的な維持更新に努め持続可能な下水道経営の確立を目指し、経営改善に努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。